1969
11月号
No.192
編集兼発行
鮫川村
総務課
塙町 佐藤印刷所

広報 さめがわ

11月の人口と世帯
人口 6,960(－1)
男 3,499(＋2)
女 3,461(－3)
世帯数1,233(－1)

お母さんありがとう!! お嫁さんごくろうさん!!

お母さんの日 11月22日
お嫁さんの日 11月23日

今年の村の文化祭は第二二回にあたり、一一月二一日出品物の搬入、陳列、審査が行われ、二二日と二三日が観覧と諸行事の日になります。

今年は体育行事を十月十日の体育の日に、村民スポーツ大会として盛大に開催し、菊花、盆栽、刀剣古書画など綜合美術展を、一一月五、六日に開催しているので、

○お母さんをたたえる会
（一一月二二日）
○お嫁さんに感謝する会
（一一月二三日）

それぞれ鮫川中学校体育館で開かれ、慰安芸能大会が併せて開かれます。

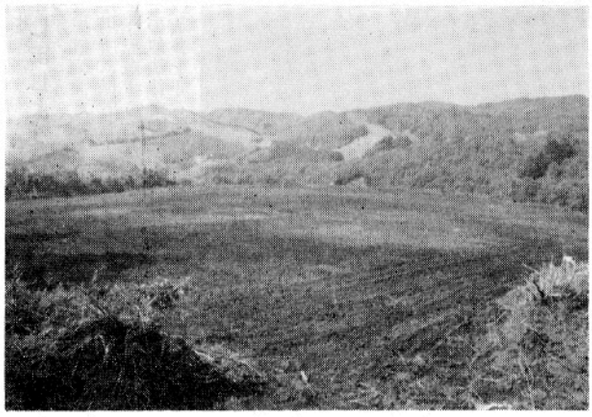
なお中学校会場では、児童生徒の作品展、商工会の商工展などがあります。

高校会場は、農産物品評会や高校生徒作品展でにぎわうことでしょう。

青年研修所会場は、生活改善展、農業改良展で、明日の農業を示唆する作品が展示され、畜産センターでは農協の農機具展が、これからの農業機械化の方向を示してくれることになりましょう。

公民館会場では、絵画の個展がある予定です。

恒例のお母さん、お嫁さんの会にはご都合くり合せ多数のご参加をお願いします。また各種展示会にはご苦心の作品をたくさん出品して下さるようお願いします。



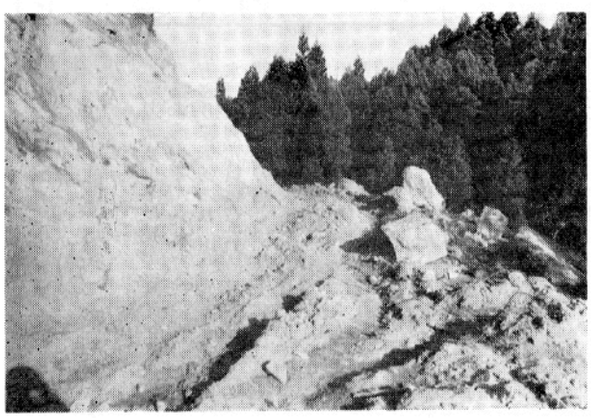
里山開発の草地造成事業が計画以上のスピードで完成し、畜産振興の基盤が着々整備されていきます。

今年の優良赤ちやん決る

昭和43年4月1日から昭和44年3月31日までに生れた96名の赤ちやんから、優良健康児を決める審査は、去る10月21日母子健康センターで行われました。棚倉町藤田昭子先生と保健婦、助産婦が審査に当り、身長、体重ともに標準以上で、発育良好な次の20名が優良健康児に選ばれました。

優良健康児

生年月日	性別	赤ちやんの氏名	保護者名（母）	続柄	住所
43. 4. 3	男	生田目 利雄	生田目 アキ子	長男	字青生野
43. 4.16	男	円井 浩三	円井 安恵子	三男	字道少田
43. 5. 4	女	矢吹 元子	矢吹 スイ子	長女	字官沢
43. 6.17	男	青戸 孝之	青戸 ケイ子	長男	字彦次郎
43. 6.28	男	高坂 浩美	高坂 智枝子	二男	字上
43. 7.14	女	赤坂 久美子	赤坂 キミ	長女	字上耕地
43. 7.25	男	生田目 清栄	生田目 タツイ	二男	字大石草
43. 8.22	男	白井 和男	白井 園子	二男	字新宿
43. 8.22	女	白井 昭子	〃	二女	〃
43. 9.21	男	渡辺 洋之	渡辺 キミエ	長男	字道少田
43.10.24	男	生田目 一宏	生田目 芳江	長男	字鍬木田
43.11.15	女	矢吹 弘美	矢吹 ヨシイ	二女	字芦ノ草
43.12.29	男	矢吹 和浩	矢吹 美智枝	二男	字遠ケ竜
44. 1. 4	女	斉藤 美智子	斉藤 克子	長女	字酒垂
44. 1.12	男	蛭田 寿夫	蛭田 文子	三男	字中山
44. 1.15	男	前田 章	前田 フサ	長男	字官代
44. 1.29	女	高木 春美子	高木 フミエ	長女	字新宿
44. 2. 7	女	霜田 幸子	霜田 イネ	長女	字前折戸
44. 2.17	女	小野瀬 弓子	小野瀬 きくえ	三女	字越虫
44. 3.23	男	水野 美晴	水野 カツ子	長男	字道少田



道なき山に道を造る林道開設事業。今年は林構で落合川林道と井戸入林道が完成に近づきました。

おめでた

十月
関口 藤田紀美江父文雄
西野内 松本由美子〃定吉
戸倉 関根 友明〃乙夫
戸倉 関根 隆〃乙夫
広畑 水野 哲夫〃博和
新宿 国島 武人〃武士
木之根 中島 一則〃国夫
巡ケ作 古舘千恵美〃誠二

おくやみ

十月
上耕地 赤坂 盛夫 29 才 ツネ
沼野沢 水野 ハナ 53 世帯主
石ノ花 舟木 啓子 14 清一
大房 蛭田 ミヨ 86 忠男
真坂 湯座 トミ 76 リン
石ノ花 斉藤ヨシノ 47 照雄
定満

ご協力に感謝します

赤い羽根の共同募金は、目標額一八万一千円に対し（堀川愛生園募金含む）一〇月二八日までに目標を上廻る募金をいただきました。

ご協力に深く感謝します。

区別	目標額	募金額
赤坂西野	29,865円	30,450円
西山	25,793	25,820
赤坂中野	34,842	34,842
赤坂東野	37,466	37,475
富田	17,376	17,380
渡瀬	25,069	25,069
青生野	10,589	10,590
役場職員	——	1,510
合計	181,000	183.136



初めての菊花展で村長賞に輝く大河内光男さんの作品など

猟銃等の取扱に注意しましょう

一一月一日から狩猟が解禁になり、県内で早くも死亡事故という痛ましい犠牲者が出ました。

近年特にハンターの数も多くなり一寸した不注意で大きな事故をまねくことになります。山には獲物ばかりでなく農家の人が山や畑で仕事をしています。必ず定められた注意事項を守つて事故を起さないようお互に注意して下さい。

・猟銃等は通常必ず安全装置をしておくこと。

・公道上においては、銃をケース等に入れ、安全な方法で携帯すること。（弾丸は装塡しないこと）

・狩猟現場で弾薬を装塡するときは、周囲の安全を確かめ、銃口を真下に向けるなど細心の注意をすること。

・あわてず獲物をよく確かめてから発射すること。

・自宅等に銃や弾薬を保管するときは、弾丸を装塡しないで子供等にいたずらされない場所、火気のない安全な場所に保管し、錠をするよう配慮すること。

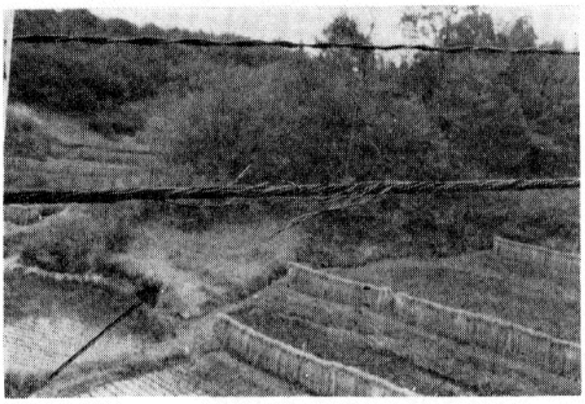
・その他法律で定められた取扱基準を守ること。

危い!!空気銃

空気銃は猟銃に比べ安易に取扱われがちで、空気銃による事故も少なくありません。

人家やその他危険な場所では絶対に使用しないで下さい。

電力線や電話線に止つている小鳥等を空気銃で射たないで下さい。電線に弾丸が当ると線が切断され、多くの方に迷惑をかけます。空気銃も人命事故をひきおこす危険なものです。猟銃と同じく取扱いには十分注意して下さい。



写真は空気銃の弾で切断された電話線（前田地内）

水戸天狗党越先生

就縛の地について

（前塙町長）金沢春友

最近元塙小学校長の松本清寿さんが久方ぶりに来訪され、水戸天狗党員越惣太郎先生就縛の地という碑が、明治百年記念として、福原と富田の中間旧道の峠に建てられたと話された。私はこれを聞いて、道未だ亡びずの感を深くしたのである。それで松本さんからのお話もあり、越先生について、少しく書いて見たのである。

越先生は、水戸は小川の産幼より学を好み、江戸に出で当時の最高学府であつた昌平校、今の東京大学の前身に学んだのであるから、学識の高い人物であつた。

早くより勤王に志し、討幕運動を画策していた。その万延元年八月には丙辰丸の船中で、長州の桂小五郎、松島剛蔵等と成破の誓を締結し、討幕運動を進めていた。即ち長州は成であり、水戸は破の役目を果す約束である。次いで筑波山の変起るや、同志と共にこれに加わり、田中源蔵隊に加盟し、絡始行動を共にした。而已ならず、部隊に於ける重大な問題には、必ず関与され、これを所断した。天狗党破れて不利となるや、遁れて奥州に下り、建碑の場所で就縛、棚倉藩主松平周防守の手によつて処刑された。年四十一。

越えて明治の聖代となるや靖国神社に合祠され、次いで大正七年に至り正五位を追贈された。

鮫川史(14)

天明・天保の飢饉と山の赤坂

国島義広

腹痛みて腸のあるを知り、飢いて始めて豊年の天恵を知る。天明と天保の飢饉を人呼んで餓死年と云つた。当時赤坂郷の惨状甚だしきものが見られる。

光格天皇の天明三年卯（約二百年前）と仁孝天皇の天保七年辰八年巳（約百五十年前）の連続の凶作は全国的の大飢饉であつた。

今渡瀬に残る救荒修祭記碑の木之根地内を見るに、天明三年卯年の戸数百五十戸が此の年減つて五分の一となる（二十五戸）とあり、尚天保七年八年の記無く判然とせざるも天明の夫より甚しき惨状が見られる。

当時東野村名主（大庄屋）粂蔵の代官所に書上げの文献を参考に供する。（粂蔵は鈴木道郎氏、鈴木源義氏の祖）

年号／村名	天保七年	天保十二年
東野村	五十八軒	八軒
中野村	二十七軒	二軒
石井草村	二十一軒	六軒
戸倉村	七十四軒	五十七軒
西野村	八十一軒	五十八軒
富田村	二十八軒	九軒
渡瀬村	五十三軒	十五軒
宝木村	七十二軒	五十軒

西野村は塚本村、石神村、真坂村を含み以上の如く減ると記録す。（鈴木道郎氏家文書より）

此の年富田村では名主平治が、西河内村名主重蔵より米四十俵を借りて村人を救う覚書もあり、（松本清寿氏蔵）

又戸倉村では名主林右エ門が、会津領より御倉米（藩有米）百俵を買受け、百姓代伝右エ門が隣村塚本村名主三五郎より白米六斗五升を代金二両にて買受け村人を救うと云う覚書も見ゆ、（林右エ門は関根一氏の祖、伝右エ門は関根昭二氏の祖に当る）

又石神村百姓某が棚倉藩有林（殿山）を盗伐して死罪処刑の記録も見ゆる。

富田村中沢の百姓直吉が貧の盗として、西野村某家と、東河内村某家に強盗に押入り死罪に処せられる等、実に忍びざるものがあつた。

中野村の如きは農家が少い為め被害甚しく二戸に減り、青生野は戸数十八戸が全部餓死遁走し無人の寒村と化す。

戸倉、宝木、西野村は他から入穀する事が出来たが、極貧の民はそれも出来ず、尚旧幕時代は出ず穀法度、入穀法度と称し、金があつても食糧を買い入れる事が出来ず餓死することとなつたのである。

幸い此の地方は全部天領（徳川幕領）であつたので、親藩会津、水戸、磐城より入穀が出来たのであるが、青生野の如きは当時不便の地故にこれも出来ず、大抵は餓死又は遁走して亡村となつた。

なお宝木、戸倉、西野村の比較的被害の少なかつたのは平素の貯穀と、富の度が高い事と、畑作地帯であつたので雑穀の収穫により越年して餓死を兎れたであろう。

青生野は明治三年ま無人の枯村であつた事は前にも述べたが、癈藩後泉、相馬の士族が草分けとなり、現在では渡瀬より分区し戸数百八戸を有する豊かな大字となつた。

天明の飢饉の餓死者の供養碑は、渡瀬の救荒修祭の記により有名だが、富田の中央の常信院古刹跡にもある。

供養塔と三字大書し、右側に三界万霊仏果菩提也　富田村合××（掌か葬か不明）左側に寛政十一年未三月二五日と刻む。

天明辛年より起算し十七回忌に当る。（今日の村葬である）

（次号へ続く）

九州横断道路を往く

村長石田卯子八

（31）

阿武隈八溝山系とともに広域農業開発基本調査の指定をうけた、九州の久住飯田阿蘇地域の視察を県開発促進協議会で行いました。

山系地域内の町村長に、県農政部二名県町村会一名を加えて一行は一五名。一〇月二七日から一一月一日に至る日程で実施しました。

いつも忙しい人たちですから往復は空路によることにし大分熊本間の九州横断道路を中心にして、沿線の先発工区に振幅を拡げながら、現地の実情もよく視ることに努めました。

この地域のうち久住、飯田は大分県、阿蘇は熊本県ですが、熊本は大分より数歩進んでいるので、われわれは先づ大分の方に調査の焦点を当てました。

九州の最高峯久住山をかこむ久住飯田高原と、これに連なる広大な山地が、こんどの開発調査の対象になつております。

現在は一市八町となつていますが、面積は、一一五、四八三haで、阿武隈山系よりははるかにせまく、従つてまとまつた地域といえるようです。

未開発の原野は三三、〇〇〇haで改良草地九、九九五ha管理野草地一〇、〇二九ha、山林一〇、〇二〇haを開発し草食性大家畜を中心とする農村建設を目ざして、耕、林、草地を一体化した綜合開発を行うものとしております。

なお野菜、花、果樹、桑の計画も織りこんであり、山林はクヌギを育ててシイタケの原本にするということです。

われわれの関心は、この事業を企画推進し、国の事業、投資を受け入れる県の機構がどうなつているかということにありました。

この点、大分県は昨年から久住飯田地域農業開発室を発足させて、専任二五名兼任六名雇員数名を配置する強力な布陣であることを知りました。

開発予定地に入つたのは、一〇月二九日で、先発工区湯布院塚原団地、城ヶ岳団地、草地畜産センター、農業開発センター予定地などを見ました。

先発工区の団地は、一望して山に木がなく、広い野草地が特徴です。これは馬産地の昔から伝統的に春の山焼きを行つてきたためと思います。

農家の集落もあまり目につかず野草一色の高原という感じですから、草地改良も能率的に行われるものと思います。

われわれがこの広大な原野を見て、誰しも感じたことは天孫降臨の昔から開けたこの地域で、どうしてこの広い土地資源が、現在まで放置同様になつていたかということでした。

それは交通路線が開かれなかつたことを、最大の原因としてあげることができるのは阿武隈山系の場合と同じであろうと思います。

それが全長三〇〇kmに及ぶ九州横断道路の開設によつて眠つていた資源に開発の脚光を浴せることになつたわけです。

開発に先行すべき幹線道路の重要な機能性を十分に感じさせられたわけです。

議会だより

後進地域の開発に希望
国道予定線を視察

産業経済に恵まれない会津、県南方部の山間地帯に国道を通し、未開発地域の開発をはかるため、新潟県弥彦を起点とし、いわき市勿来に通ずる道路を国道に昇格させる運動が、長年にわたりつづけられてきましたが、沿線住民の熱意と田中角栄会長や木村知事の尽力があり、沿線町村長等期成同盟会の活躍により、ようやく日の目をみる日が近づいてきたので、村議会議員一行は村長同行のもとに去る十月二十二、二十三日の二日間にわたり予定線を視察してきました。

出発の朝は小雨模様で肌寒い日でしたが役場前を午前八時に出発し、塙町八幡――棚倉町寺山――逆川――表郷村を経て白河市に着きました。最初の予定では甲子林道を通り会津の下郷町に出る予定でしたが、交通止めのためコースを変更し郡山市より三森峠を越えて会津に入りました。

経済発展に期待

国道予定線とはいえ道路は未整備の箇所が多く、沿線には農家が点在し、これといった産業もなく経済発展から取り残されている感じでした。未視察の会津地方はこちらより更に遅れているのではないかと予想されるので、本村の青生野地区も同様ですが、この線が国道に指定され立派な道路が開通すれば、産業面はもとより観光面でも飛躍的な発展が期待できるのではないかと思われました。

三森峠から入った元の湖南村は本村と条件の似よった所ですが、道路整備が割合に進んでいるのに驚きましたが運転手に「道路の悪い所ばかりよく選んだものだ」と笑われた。だが国道沿線と違い開発の余地が多く残されているものと考えられ、国や県も表通りばかりでなく裏通りにも目を向けて欲しいものだとの感を深くしました。当日は裏磐梯よりスカイバレーラインを越えて、山形県の白布温泉に一泊し、翌日は米沢市内を見学、栗子トンネルを通り福島、郡山市を経て帰村しました。

危険物の取扱いは慎重に!!

寒くなるとストーブ類や、たき火等の火気使用が多くなり一寸した油断で大事をまねく危険があります。

火災統計でも、一年のうち十一月から四月までの火災発生件数が一番多くなっています。

村でも消防法の規定に基づき、火災予防条例を制定して危険物の取扱いからコタツやたき火の取扱いに致るまで細かに規制しております。

これから火の取扱い、危険物の取扱いには一層注意してボヤや火災を絶対に出さないようお互に努力いたしましょう。

（鮫川村火災予防条例要約）

◎コンロ及び移動式ストーブの取扱基準

・燃料の性質に応じ、可燃物から火災予防上安全な距離を保つこと。

・故障や破損したものを使用しないこと。

・本来の使用目的以外に使用しないこと。

・本来の使用燃料以外の燃料を使用しないこと。

◎たき火の規制

・引火性又は爆発性の物品その他の可燃物の近くにおいては、たき火をしないこと。

・たき火をする場合においては、消火準備その他火災予防上必要な措置を講じること。

◎警報発令中における火の使用制限（火災に関する警報）

・山林、原野等に火入れをしないこと。

・屋外で火あそびやたき火をしないこと。

・屋外において、引火性、爆発性又はその他可燃物の附近で喫煙しないこと。

・残火（たばこの吸殻を含む）取灰又は火の粉を始末すること。

◎危険物の貯蔵又は取扱基準

・危険物は、注律で定められた数量以上は貯蔵又は取扱うことができません（規定数量別記のとおり）

・危険物を貯蔵又は取扱う場所では火を使用しないこと

・危険物の性質に応じて遮光又は換気を行うこと。

・危険物を貯蔵し、又は取扱う屋外の場所の周囲には幅二m以上の空地を有するか又は防火上有効なへいを設けること。（以下省略）

届出義務に関すること。

◎危険物の貯蔵又は取扱いについて次の数量については村長に届出て、安全な方法であれば貯蔵又は取扱うことができます。（危険物等のうち主なるもの）

・ガソリン＝二〇ℓ以上一〇〇ℓまで

・燈油、軽油＝一〇〇ℓ以上五〇〇ℓまで

・重油等＝四〇〇ℓ以上二、〇〇〇ℓまで

・石炭、木炭＝五〇、〇〇〇㎏以上

・木毛及びかんなくず＝二、〇〇〇㎏以上

・わら類＝五、〇〇〇㎏以上（註制限数量以上は貯蔵も取扱いもできません）

◎火を使用する設備のうち、次のものについても村長に届出なければなりません。

・熱風炉

・据付面積二平方米以上の炉及びカマド（個人住居のものを除く）

・ボイラー（個人住居のものを除く）

・乾燥設備

・火花を生じる設備

・水素ガスを充てんする気球

◎火災とまぎらわしい煙等を発するおそれある行為等の場合も村長に届出を必要とします。

・打上げ又は仕掛花火

・劇場等以外の建物その他の工作物における演劇、映画その他の催しものの開催

・水道の断水又は減水

・消防隊の通行その他消火活動に支障を及ぼすおそれのある道路工事

◎届出用紙は役場総務課にあります。災害予防の徹底を図るため該当する場合は必ず届出を励行して下さい。

◎条例の規定に違反したときは罰則が適用されます。



火の用心、出る前、寝る前もう一度

村の基本財産に寄付

次のかたがたから寄附がありました。紙上で厚く御礼申し上げます。

◉村基本財産へ寄附

金弐千円（亡父の遺志）
高木市郎右エ門殿

金五千円（亡母の遺志）
北条　助男　殿

金五千円（亡祖母の遺志）
阿久津定太郎殿

金四千円（亡父の遺志）
藤元　美　殿

金三千円（亡母の遺志）
板橋　源良　殿

金五千円（亡母の遺志）
水野　馨　殿

金五千円（亡母の遺志）
北条　忠夫　殿

金弐万円（国有林払下記念）
代表　森　波治　殿

金参万円（国有林払下記念）
代表　森　亨　殿

金五千円（亡父の遺志）
赤坂　虎男　殿

金五千円（国有林払下記念）
代表　中川西　一美殿

金壱万円（亡母の遺志）
浅川町角田　裕　殿

金壱万円（亡父の遺志）
松本　一郎　殿

金弐千円（亡祖母の遺志）
湯坐　照雄　殿

金五千円（消防団長退職記念）
前田　照　殿

金壱千円（消防団分団長退職記念）
高坂　精一　殿

◉消防施設として寄附
土地、四六・二八平方米（余所内部落防火用水敷地）
関根　市郎　殿

◉富田小学校へ寄附
金壱万五千円
東京都　矢吹　三郎　殿

グループ紹介 (6)

『山百合会』

わたくしが住んでいる真坂部落は戸数約三〇戸、村の中心である新宿から二キロメートル西にある部落で農家は約八〇パーセントを占めており、環境的には恵まれていますが、わたくしたちの周りにはいろいろなやみが沢山あります。嫁と姑との問題、農村婦人のあり方、当地域における農業経営のあり方、農村生活のあり方など近年特にさわがれていることばかりです。

このようなやみを少しでも解決しようという声が高まり、今から五年前の昭和三十九年四月に、グループ山百合会が誕生しました。

当時は、会員が一〇人足らずでしたが、年々この成果が部落に認められ、現在の会員は一八名を数えます。

運営内容については、会員の加入脱退は自由で、この会の趣旨に賛同する婦人であれば誰でも加入できます。脱退する人は一人もありません。

また会費は徴収しないで、すべて会員による運営資金造成事業により得た収益金でまかなっています。

次に、事業について述べてみましょう。

第一は、資金造成事業ですが、造林の下刈り作業とか、田植作業を会員全員で行います。

第二は、教養部門として料理研究会を年二回、農協婦人部と共催で実施し、保存食の作り方、栄養のとり方など食生活の改善について研究し、また話し合いとしては、年六回農休日を利用して、育児の問題、家族制度の問題など、日常生活のなかで数多くのなやみや、尊い体験談を出し合い、日の暮れるのも忘れ熱心に話し合い、明るい家庭づくり、部落づくりに一歩一歩進んでおります。

第三は、レクリエーションについてですが、去年から村内に家庭バレーボールが普及しましたが、わたくしたちのグループ山百合会も、村の大会に真坂チームとして出場しました。この家庭バレーボールには殿方も興味をもたれ、ボールやネット、大会に出場するためのユニホームなどを購入していただきました。

こうした部落のみなさんの熱意により、会員も張り切つて練習し、大会に出場したわけです。

農村の腰のばし動運として普及した家庭バレーボールもかあちやんバレーボールなどと呼ばれていますが、真坂部落では、子どもや殿方も交え部落ぐるみで、農休日の一日ボール一つを追つて楽しくすごしており、本当の家庭バレーボールであると信じます。

また年度末には、近くの温泉にひたり、農作業などの疲れをいやしながら、一年間の反省をするとともに、世間話しに花を咲かせ、笑いのなかにも有意義なことが数多くあり、明日への活動力を養うなど、親しく話し合いながら楽しい一日を終り家路に着きます。

このほかに、毎年五月三日には、部落総出で花見をしておりますが、部落の融和を図る意味では大変有意義な催しだと思います。

以上述べたように、数々の事業や催しの中から、少しでも農村婦人の地位の向上と、人と人との和、強いては部落の和を図り、住みよい郷土づくりに役立てばと願つております。

わたくしたちのグループ山百合会も、年毎に花が一つづつ増えてゆくよう、根をしつかりと張り、葉を大きく拡げ強い風や雨にも倒れず、白く清楚に、そして香り高く咲き誇る山百合のように育てて行きたいと思います。

（会長　湯座　梅子）

秋の綜合美術展
……盛会裡に終る……

鮫川美術同好会の主催による「秋の綜合美術展」は、鮫川村、同公民館の後援により菊花香る十一月五、六日の秋晴れの好天候に恵まれ、農繁の最盛期にもかゝわらず、二日間の総参観者は一千二百余名を数え、盛会裡に終った。

菊花愛好者の丹誠こめた見事な菊花八十九点を始め、総出品点数は三四二点に達し、公民館の階上階下を埋めつくした。

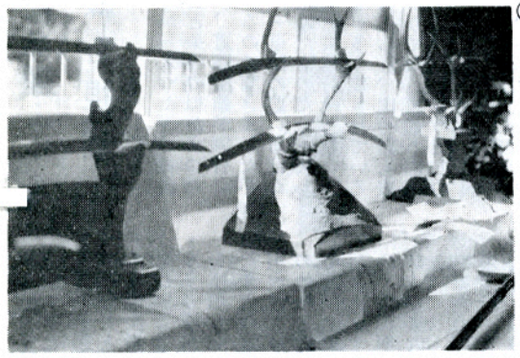
中でも西山盆栽愛好会による山物盆栽の老松をはじめ、見事な逸品が多く観る人に「俺もやってみるか」という共感を抱かせ、また剝製では親仔狸の酒使いが、保育園児や学生諸君の人気を呼んだ。

刀剣は数こそ少なかったが秘蔵する伝家の名刀ぞろいで年配同好者を唸らせた。

古書画では明治の元勲三条実美、品川弥二郎、山県有朋、広野磐洲や左中将雅親の書



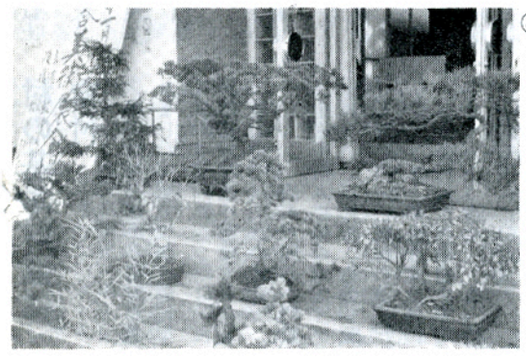
①



②



③



④

① 門外不出の時代を経た名画や書が観衆の目をよろこばせた。
② 伝家の宝刀。3尺の秋水とはよく云つたもの。
③ 盆栽、銘石見れば見るほど美しい。
④ 見事な枝ぶりに感嘆するばかり。

又門外不出の狩野常信、安信の名画の前には三十分以上も座り込んで観賞している人もあり、洵に的であった。

古文書は棚倉城及び白河城地明細図をはじめ、元禄、宝永時代のもの、又宝暦十一年の「公儀御仕置定」等貴重な文献が陳列され、民俗資料では、古くは石器時代の石斧や縄文時代の土器、昔の鏡や捕手の役人が使用した「袖絡み」、太政官令高札、鮫川の戸長役場時代の標札など貴重な資料が展示され、係員の説明も多忙を極めた。

これら綜合美術展の第一回目の試みとしては先づ大成功を収めたといえよう。

作品の搬入搬出、受付展示案内説明まで一切やられた美術同好会員のご苦労と、出品者並びに村民の方々の御協力に深く感謝いたします。

◎菊花展入賞者

村長賞　大河内光男
村議会議長賞　湯座　伝
教育委員長賞　矢吹孝之助
教育長賞　橋本　政春
公民館長賞　星　武
商工会長賞　市川　正

◉出品点数

種目	出品点数	出品協力者数
菊花	八九点	一二人
盆栽	六五	二三
盆石	二〇	四
木根ツ子	一〇	三
剝製	二〇	一〇
刀剣	一九	一一
古書画	四四	四〇
古文書	五一	一一
民俗資料	二四	一四
計	三四二点	一二八人

才末たすけあい
募金にご協力下さい

今年も余すところあと一月足らずになりました。

年の瀬を迎え、病気や貧困などのため暗い生活にあえぐ人々も数多くあります。これらの人たちに明るいお正月を迎えられるよう、今年も皆様の温かい思いやりのこもったお見舞を贈るため、才末たすけあい募金を行ないます。

どうか温かい心で御協力下さるようお願いします。

募金の方法は組長さんが取りまとめることになりますのでよろしくお願いします。

土地改良区総代
無投票で当選

鮫川村土地改良区総代に立候補されたかたは三十名で定数内のため無投票で全員当選人に決定しました。

星　弘（藪）新
白坂　清美（酒垂）再
関根　良夫（狩之沢）新
北条　昭一（岨長）〃
舟木　福保（岡田）再
水野　久（追木）新
芳賀　一（鍛治平）再
関根　勝（大平）新
関根　敏夫（菅田）〃
矢吹　茂（横座）〃
芳賀　清一（摺合）〃
生田目公丸（新宿）〃
山本　勝治（大塩）新
金沢　一良（真坂）〃
中川西正一（関ノ上）〃
矢内　安喜（戸草）新
鈴木　道郎（広畑）〃
森　一一（遠ケ竜）〃
矢吹　勝義（芦ノ草）〃
青戸　敏哉（前沼）再
松本　克巳（鍛木田）新
大平　忠一（二反田）〃
生田目定之助（中沢）〃
芳賀　登（西之沢）再
赤坂　基（中野町）新
芳賀　太司（中山）〃
藤田　好幸（関口）〃
矢吹　由栄（青生野）〃
新妻　貞夫（〃）再
生田目忠之助（〃）再

【土地改良区から】

賦課金滞納処分について

この度県知事より滞納処分の認可がありました。

近日中に物件の差押えを行います。未納者は至急左記理事に相談の上、差押前に納入される様御知らせします。

西野地区　高坂　佳材
西山地区　高野　友弥

消防団に寄付

このたび、一五年以上消防団員として活躍され、去る三月三十一日付で退職された二七名の方々に村長から退職報償金が伝達されましたが、この席上消防団に対し次のとおり寄附がありました。

◉金五千円（前消防団長）前田　照殿
◉金二千円（前分団長）金沢　利雄殿
◉金二千円（前分団長）高坂　精一殿
◉金二千円（前分団長）芳賀　文雄殿
◉金二千円（前分団長）斉藤　平四殿
◉金二千円（前分団長）石井清重郎殿
岡部　文雄殿

西山地区　石井　栄一
中野地区　石田卯子八
東野地区　吉田　義一
富田地区　船木　操
渡瀬地区　蛭田　一
〃　芳賀　洋郎
青生野地区　鈴木　清司

◉金二千円（前副分団長）緑川　利清殿
◉金千円（前部長）舟木　忠光殿
◉金千円（前班長）窪木　敏郎殿
◉金千円（前班長）金沢　太一殿
◉金千円（前班長）青戸　芳夫殿
◉金千円（前班長）生田目富夫殿
◉金千円（前団員）鈴木　春吉殿
◉金千円（前団員）宗田　悦次殿
◉金千円（前団長）早川　光久殿
◉金千円（前団員）高坂　昭殿
◉金千円（前団員）渡辺　勝美殿
◉金千円（前団員）岡部　豊殿
◉金千円（前団員）国島　紀元殿

献血に協力を!!

十一月二十七日　午後一時
〃　二時
鮫川村公民館前
同日　午後二時三〇分
〃　三時三〇分
渡瀬農協支所前

◉十一月二十六日から
十二月二日まで
秋の全国火災予防運動が実施されます

